



2018年4月11日発行

2018年4月号(通算211号)

東京武蔵野多摩ワイズメンズクラブ

東京YMCA西東京センター内 〒186-0002東京都国立市東1-4-20-102
TEL 042-577-6181 FAX 042-577-5574

【2017～2018主題】

国際会長 ヘンリー・J・グリーンハイム 「Let us all Walk in the Light-Together」
 アジア地域会長 Tung Ming Hsiao 「Respect Y's Movement」
 東日本区理事 栗本 治郎 「広げよう ワイズの仲間」
 あずさ部長 大野 貞次 「継続は力なり・一歩でも前に・そしてあがこう」
 東京武蔵野多摩会長 板村 哲也 「変化」

【クラブ役員】

会長 板村哲也
 副会長 大輪匡史
 宮内友弥
 会計 山口直樹
 書記 麻生由美子

I B C Tsim Sha Tsui Y's Men's Club (香港)、Seoul Han Yang Club(韓国)
 D B C 神戸学園都市ワイズメンズクラブ

2018年
4月の聖句

人々はイエスを木にかけて殺してしまいましたが、神はこのイエスを三日目に復活させ、人々の前に現してくださいました。(使徒言行録10:40)

ワイズメンズクラブモットー

強い義務感をもとう 義務は全ての権利を伴う

五つの誓い

- 1.自分を愛するように隣人を愛そう
- 1.青少年のためにYMCAに尽くそう
- 1.世界的視野をもって国際親善を図ろう
- 1.義務を果たしてこそ権利が生ずる事を悟ろう
- 1.会合には出席第一、社会には奉仕第一を旨としよう

ワイズメンズクラブの目的

- 1.個人的にもまたクラブとしても、その奉仕活動を通じてYMCAの活動を支援する
2. ワイズメンにふさわしい他の団体を支援する
3. 地域社会や国際的な問題に関心を持ち、一党一派に偏らない正義を追求する
4. 宗教・社会・経済・国際などの諸問題について会員達を啓発し、積極的に参加させる
5. 健全な交友関係を作り出す
6. この協会の国際・地域・区の事業に支援する。

4月例会プログラム

- 強調月間：L T
 日時：4月11日(水) 19:00～21:00
 場所：東京YMCA西東京コミュニティセンター
 司会：宮内 受付：麻生、渡辺
 ドライバー：野尻
 * 開会点鐘 (会長)
 * ワイズソング
 * 夕食
 * フリーディスカッション
 「クラブの今後の活動」
 * 報告・連絡等
 * ハッピー・バースデー
 * YMCA報告
 * にこにこ
 * 閉会点鐘 (会長)
 * 今月のハッピーバースデー
 1日：宮内メネット
 15日：小林文彦さん

3月例会報告

在籍者	13名
出席者	9名
メーキャップ	1名
出席率	77%
ゲスト	1名
ビジター	4名
メネット・メット	0名
にこにこ	6,707円

関さんの講演を聴いて

こんにちは。多賀井祐聡(どき)です。私は、脳梗塞を発症し、後遺症を持ちながらも言語聴覚士の資格を持ち活躍されている関啓子さんの講演について感想を述べさせていただきます。

まず、今回講演をしてくださった関啓子さんについて簡単に紹介させていただきます。関さんは、1999年の第1回国家試験で言語聴覚士という発語・嚥下等の専門家の資格を取得しました。そして、同年神戸大学医学部助教授、2002年に教授。2008年に改組により同大学大学院保健学研究科教授。2009年に心原性脳梗塞を発症します。2010年に現職復帰をされ、2011年に同大学退職。2013年に三鷹高次脳機能障害研究科を開設し、現在も活躍されています。

講演の内容は、脳梗塞という疾病についてや、関さんが発症から様々なことを感じながら経過していった病状やその時の気持ちをお話しいただきました。私は、作業療法という言語聴覚士とはまた異なるリハビリテーションの大学で勉強をしている為前半に関しては大学の授業を受けているような気持ちでした。後半では、専門的知識を持ちながら脳梗塞を発症した関さんの症状やそれに対する関さんの葛藤をお話ししていただきました。

私には、身体障害者の姉がいます。姉は、私が中学3年生の時に脳梗塞を発症しました。現在でもその後遺症により明瞭な発語や、自立歩行は困難な状態です。姉が発症後、超救急治療室に入室し、私がお見舞いに行ったとき看護師の方には、姉の状態が安定していないため声を掛けたり、手をさすったりしてはいけませんと言われていました。私は、その時に無力感を強く感じました。目の前にいるのに声を掛けることも、手に触れることもできない自分が情けなく感じ、いつも一番そばにいた姉がとも遠くに行ってしまったように感じざるを得ませんでした。

関さんの講演を聴き、私は、脳血管障害を発症した人の不安や葛藤を知りました。この講演を聴いたことで、今までなんとなく怖くて聴き出せなかった、発症後の姉がどんな気持ちだったのか、つらかったのか、怖かったのかを聴く勇気が湧きました。関さんのお話を伺ったり、姉の気持ちを知ったりして、脳血管障害を発症した人が本当に求めていることは何なのかよく考えられる機会となりました。

関啓子さん今回の講演大変勉強になりました。ありがとうございました。

3月例会報告

日時：3月14日（水）19時から

会場：東京Y M C A西東京コミュニティーセンター

司会：鈴木 受付：大輪 山口 ドライバー：野尻 メンバー：9名 ビジター：4名 ゲスト：1名

3月の例会は『子供の居場所』をテーマに所沢ワイズメンズクラブのメンバーでhiga-design建築設計事務所代表の東 裕二さんに、現在東さんが行っている活動についてお話しをしていただきました。

東さんは狭山市在住で建築家として住宅や店舗の設計、家具製作などを行う傍ら、3人の仲間とNPO法人を設立し、街づくり活動にも力を注いでいます。

国立との関わりは国立本店という、国立が大好きな大人のコミュニティー運営に携わり、クラウドファンディングにより資金を集め、「鳩の湯プロジェクト」で全国に3人しか居ないとされる、銭湯の壁絵師の一人で国立在住の方と浴室の壁絵の塗り替えや、国立リレーマラソンに出場し3年連続でコスチューム賞を獲得するなど、様々なイベントを、国立を舞台に実施してきました。

今回のテーマ『子供の居場所』は2015年西武狭山台ハイツの元美容室の空店舗を改装して開設した、事務所兼コミュニティースペース「夢はうす」での活動を中心に紹介いただきました。「夢はうす」は店舗の真中にコミュニティースペースを取り、その奥にキッチンと建築設計事務所と3つの空間で構成されています。

ここでは様々なイベントを開催していますが、2016年1月にスタートさせた『夢はうす食堂』は所謂子ども食堂になります。

このコンセプトは「みんなで食べるとおいしいね」そんな思いで子どもたちがおもてなしをする食堂になっているそうです。

当初は子供たちも調理の手伝いをしていたそうですが、参加人数が増加した現在はメニューやメッセージカード、ウエルカムボード作りなど、おもてなしを子供達が担当している。

『夢はうす食堂』の運営

①毎月第3金曜日の18時30分から19時30分まで開催。調理は16時からスタッフが毎回40食を用意。

②参加費は大人300円、子供無料（第8回より）定員30名。

③告知・広報はフェイスブック（FB）のイベントページを通して、開催や食材の提供募集を行っています。

ただ参加者は知り合いを通して参加という方が大半を占めている。

④運営形態は名簿等で参加者を把握することによるサロン活動とし、不特定多数に飲食を提供する飲食業ではない形態を取る事で保健所等への届出を必要としない形にしている。（ただし実際には保健所の営業許可を取得、スタッフには調理士も参加）食品はその場での食べ切りとして、持ち帰りは禁止している。

⑤収支は第1回から第7回まで、子供も大人も300円徴収していたが、1回あたりの平均参加人数（スタッフも含む）19人で赤字だった。第8回以降子供を無料にして、食材の提供や、フードバンクからの提供を受け、平均参加者35人（スタッフ含む）となり参加費が食材費を上回るようになった。

ただ、水道光熱費や施設利用料の大半は、東さんの個人負担で賄っている。

⑥活動を続けていくためには、まず運営費の確保があり、その方法としてはカンパの木（カンパをしていただいた方にボードに書いた木の枝に葉っぱをつけてもらう）などを実行。またスタッフの確保についてはFBでの呼びかけや知り合いの伝手で参加を促している。

運営については所沢ワイズメンズクラブの大澤和子さんの強力なサポートをいただいているとのこと。

『まとめとして』

集客、告知には時間がかかる。継続するためには無理のない体制で行っていく事が大切で、地域の人材など資源を上手く活用していく事が必要である。参加するメンバーに子供だけでなく、中・高・大学生がいる事で「ナナメの関係」が出来、それぞれの立場で経験を積む事ができる。運営は続けながらスタイルを作っていけばよくなる。活動を始める事が大切、そしてここが子供、親、地域の居場所になればよい。

『だがしや ひがし』

2018年1月から設計事務所をもっと身近に+みんなの居場所をコンセプトにオープンオフィスとして、毎週金曜日の放課後駄菓子や設計用のモックアップを並べ子供の居場所作りのイベント『だがしや ひがし』を開催している。

講話後の質疑では、実際に子ども食堂を運営しようとする場合の貴重なヒントを色々と教えていただきました。

（記録：小林文彦）

2017-2018年度 次期会長 部役員研修会に参加して

大輪 匡史

日時:3月3日(土)13時~3月4日(日)8時50分~

会場:日本YMCA同盟国際青少年センター東山荘

主催:ワイズメンズクラブ国際協会東日本区

出席者:91名(主催者+研修者)

武蔵野多摩参加者

宮内(次期理事)、板村(次期区書記)、渡辺(次期区PR専任委員)、山口(次期区副書記、次期会長、LT委員兼任)、麻生(次期書記)、小林(次期書記)、大輪(次期副会長)

私は、会場の東山荘は初めてで、広さ 設備 景観にま
ずは感動しました。盛りだくさんの研修内容で ワイズメンズクラブの生
い立ちや 目的 組織について基本を再確認しました。開
会は、東日本区理事栗本様より挨拶がありました。LTの皆様のご指導に従い研修が始まり、最初参加者は、緊
張してましたが、スタッフの気遣いで和やかに、プログ
ラムは、進行しました。研修の内容についての詳細は、
ほかのクラブの皆様から、報告があると思いますので、
わたしの感想をお話しします。2日間で主催者が時間を取ってくださったのは、ワイ
ズの組織、管理や運営についての話し合いでした。ワイ
ズの現状、未来、の運営の危機感を重要にしている現れ
だと思えます沢山のクラブメンバーからの 意見がでましたが、問
題視するだけで、我々メンバーも運営側も結論や実行に
ついて 解答がありませんでした。次期、宮内理事の下で、何が出来るか?ワイズを学び
その力強さを社会の為にいかにか活かして行くのか?組織
に指導してもらえるのか?宮内理事と共に我々も頑張ろ
うと感じました。**別れと出会い**

山口 直樹

3月6日-8日で東新部主催の「東京YMCA妙高高原ロッジ

感謝・さよならパーティ」が行われた。私も妙高高原
ロッジの前身の「罌堂庵」を1978年に東京YMCAが貰
い受けたときに、現地の視察に若手スタッフとしてかか
わったこともあり参加した。1985年に現在の「東京
YMCA妙高高原ロッジ」が建設され、以降33年間の働き
であったが、維持することが難しくなりこの3月31日で
閉館することとなったとのことである。様々な思い出を持った方々が40名近く集まり、感謝と
お別れの時を持った。特筆すべきことは、7年前の東日
本大震災の時に支援の拠点として、いち早く活動したこ
とである。支援物資集約の拠点として全国から物資を集
め、日本海経由のコースでいち早く仙台YMCAに物資を
届けたことは、多くの人の記憶に残っていることと思う。村井信夫仙台YMCA総主事が当時のことを感激と共に述
べられた「妙高高原ロッジは被災者にとって聖地でし
た」にすべての思いが込められていた。ロッジは閉鎖され寂しさも感じていたところ、素晴らし
い出来事もあった。私がリーダー時代に一緒に活動して
いた方が参加しており、40年ぶりに再会したのであっ
た。ずっと連絡が取れずにいた方で、他の仲間とも探し
ていた方であった。別れの寂しさを感じていた時に、感激的な再会の時も与
えてくれた妙高高原ロッジに感謝。YMCA・ワイズメン
ズクラブは人の出会いの場・つながりの場であることを
本当に実感した瞬間であった。様々なことが時間と共に過ぎ去っていき、その変化に寂
しさを感じることも多くあるが、また、それと同時に
様々な出会いが訪れることも多くある。このことを大切
に感じる心を持ち続けたいものである。**八王子クラブ第20回チャリティーコンサート**

(地雷廃絶運動と東日本大震災復興支援をともに応援)

板村哲也

日時:2018年2月10日(土)14:00~16:00

場所:八王子市北野市民センター

出演者:上田亜紀子ジャズグループSwing Swing
Swing!!(5名)

当クラブ出席者:麻生、板村、大輪、山口(4名)

出演は昨年と同クラブのチャリティーコンサートで好評
を博した上田亜紀子さんが率いるジャズグループSwing
Swing!!。クラリネット、ピアノ、ギター、
ベース、ドラムスのクインテット。ジャイブ向きのアップテンポで躍動感ある曲からブルース、スローフォック
ストロット向きのゆったりとしたバラードの曲まで。古
き良き時代のスタンダードジャズの名曲16曲(5曲は昨
年と同じ曲)を僅か1000円で聴かせて頂いた。お値打
ち! いずれも私達世代に受け入れやすいダンスブルな
曲で、心地よく、自然と体が動きだす。明るいステー
ジの演奏を座って静かに聴くのも悪くはないが、仄かな光
のフロアーでご婦人と一緒にカクテルを楽しみながら聴
いたり踊ったりするのはもっといいのではないか・・・?
(これは妄想)ステージはスウィング・ジャズの名曲Sing Sing Singで
終わり、アンコール曲はL.O.V.E. 幸せな気分浸った
ひと時でした。**東京グリーンクラブ45周年記念例会に参加して**

山口直樹

3月21日に東京グリーンクラブ45周年記念例会が開催さ
れた。当日は雪が降るといふ悪天候であったが149人と
いう大変多くのワイズメンが参加した。わがクラブから
は板村会長、宮内副会長と山口が参加した。初めは50周
年までやる予定ではなかった周年記念であったが、今頑
張ってやることでクラブの活性化につなげようとの意気込みで行ったとのこと。2人の新入会があるなど、クラ
ブの皆さんの心意気が、大いに感じられた。また、グ
リーンクラブは77回を数える「神田川船の会」を中心に、
地域にも大変支持される活動を長年実施されてきた実績
があり、その強みを肌で感じた。しっかりとした活動の
柱を持つことの重要さを教えて頂いた記念例会であった。

富士クラブ30周年記念例会に参加して

宮内 友弥

3月24日(土)富士市文化会館(ロゼシアター)にて富士クラブ30周年記念例会が開催された。第1部では、「サッカーこそ我が師」と題して東海サッカー協会会長高田稔氏による記念講演があった。富士クラブの誇る事業「富士市中学生招待サッカー大会」は今年で24年目とのことで、記念講演には多くのサッカー少年も招待され聴講。

第2部の記念式典ではワイズソング、ワイズの信条唱和に続き来賓として富士市長他が約120名の出席者を前に祝辞を述べられた。

第3部懇親会では鏡開きに始まり美酒とご馳走をいただき18:45お開きとなった。

<西東京YMCA便り>

出沼一弥

▼3月のプログラム報告

3/4	Smile 3月例会	東京YMCA医療福祉専門学校		
3/9-11	スノーマンキャンプ(スノーパーク尾瀬戸倉)			
3/21	「TeenS」3月例会			
3/23-25	わんぱくキッズ	対象:年少~小学2年生	引率:中元	8名
3/26-30	シーハイルキャンプ(スノーパーク尾瀬戸倉)	対象:小学生~高校生	引率:廣瀬	33名
	オール東京I-スキ-キャンプ(赤倉観光スキー場)	対象:中学生・高校生	引率:出沼	31名

▼4月の主な予定

4/4	中高生グループ活動「TeenS」1月例会
4/7-8	さくらフェスティバル
4/15	幼児野外活動「にこにこ」4月例会 小学生野外活動「ロビンソン4月例会」
4/22	知的障がい児・者 余暇活動「あおぞら・つばさの会」4月例会 発達障がい児野外活動Smile 4月例会
4/30	ぺたぺたの会

▼「私とY's」

中元美佳(みー) 西東京コミュニティーセンタースタッフ
キャンプネームの由来:名前の「みか」から

はじめてY'sの方たちにお会いしたのはリーダーのときで、もう15年も前のことになります。今も続いている「西東京フェスティバル」や「リーダー懇親会(当時は感謝会)」等でお話する機会がありましたが、当時Y'sの方たちはどこか遠い存在でした。その時よりも今の方が、リーダーとY'sの関係が近いように思います。また、ここ数年で新しいメンバーも入り、「YMCAと共に何ができるか」「今の若者・リーダーたちが、何を想っているのかを知りたい」と、意識して活動しているのを感じます。そういったみなさんの姿を見て、歳を重ねてもそういう姿勢でいることを、私も心がけていきたいと思いました。例会後の飲み会にも誘ってくださり、楽しい時間を過ごしたのもよい思い出です。最後になりますが、3月末で西東京センターを離れ、4月から山手センターで働くこととなりました。山手に訪れた際は、声をかけてくださると嬉しいです!長い間、ありがとうございました。

今後の予定

4月		5月	
・7、8日	国立さくらフェスティバル	・9日(水)	第一例会
・11日(水)	第一例会	・12日(土)	あずさ部評議会(富士五湖)
・25日(水)	第二例会 (ローズさん歓迎会)	・19日(土)	第3回健康増進カフェ オープンフォーラム・Y
・30日(月)	ぺたぺたの会	・23日(水)	第二例会
		6月	
		・2、3日	東日本区大会(沼津)